

様式第3号

# 会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成24年度 第2回 川西市青少年センター運営委員会		
事務局 (担当課)		教育振興部 青少年センター 内線(4500)		
開催日時		平成25年3月21日(木) 10:00~11:40		
開催場所		教育支援室 研修室		
出席者	委員	牛尾 巧、安田忠司、岩崎智也、米田公子、田中利彦、中田鞆子 中井成郷、澁野敏彦、田村嘉規、浦東健次、		
	事務局	松田康宏、上中敏昭、大谷啓史、中井裕子		
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> ・不可・一部可	傍聴者数	1 人
傍聴の不可・一部不可 の場合は、その理由				
会議次第		<p>開会</p> <p>1. 運営委員の委嘱</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p>3. 協議事項 (1) 平成24年度 川西市青少年センター事業のまとめ (2) 平成25年度 川西市青少年センター事業の方針</p> <p>4. その他</p> <p>閉会</p>		
会議結果		協議事項は(案)どおり了承		

# 審 議 経 過

No. 1

## 1、運営委員の委嘱

運営委員会の冒頭で委員の異動に伴ない新たに就任された委員に運営委員会会長の牛尾巧教育長から委嘱辞令が交付された。

## 2、会長あいさつ

大変ご多用の中、第2回青少年センター運営委員会にお集まりいただきありがとうございます。

平素より青少年の健全育成並びに非行防止に対しまして、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

子どもたちを取り巻く環境は厳しいものがある。青少年健全育成に関しましては大きな課題があるが皆様のご助力に感謝します。今、マスコミや新聞等においても全国的に現場の実態と言うのは学校に限らず地域等でもいろんなことがある。いじめやかからかい非行など、子どもに関わるいろんな角度で青少年の育成に関わっていかねば難しい状況だと思う。そういった面からも青少年センター運営委員会は川西市にとっては核になる会議であり、ここから具体的に発信していけるようにと考えている。

本日の第2回運営委員会が実り多い協議になることを期待しております。委員の皆様、どうぞよろしくお願いたします。

## 3、協議事項

<事務局説明>

- (1) 平成24年度 川西市青少年センター事業のまとめ
  - 青少年の健全育成および安全確保業務
  - 非行防止対策業務
  - 青少年情報発信(広報啓発)業務

【質疑応答】

(会長)

協議事項(1)事務局より説明がありましたが、質問及び意見をお伺いします。

(委員)

「こどもをまもる110番のおうち」「学校安全協力員」についての課題と方向性はよくわかったが、「こどもをまもる110番のおうち」の軒数が平成24年度と同じであるが今後、どのように考えているのか。又、「学校安全協力員」についてもあまり体制に変化がないがどのように考えているのか。

(事務局)

「こどもをまもる110番のおうち」につきましては小学校と連携を図り、出来る限り協力が得られるようにしたい。そして事業所及びコンビニへの協力を呼びかけ、拡充する方向で考えています。又、学校安全協力員についても一人でも多くの地域の方に子どもの見守りをしていただけるように。協力を願う。

(委員)

「青色回転灯装備車による見回り活動」の実施回数が増えているが、どのような改善がされたのか。

(事務局)

今年度から強化の方向で、2台の装備車両を使用して出来る限り下校時の巡回を実施してきた。又、巡回だけではなく時に車を停めて、子どもや安全協力員等のボランティアの方に

# 審 議 経 過

No. 2

声をかけてきた。基本的には2名の職員が巡回するのだが、時として1名でも行うこともある。

(委員)

「不審者対応訓練」「こども防犯教室」「非行防止教室」の実施について、もっと学校での実施数を増やせないのか。

(事務局)

全ての学校に実施していただきたいが、川西警察署、阪神北少年サポートセンターの体制を考えると厳しいと思われるが、今後も計画的に継続的に実施していきたい。

(委員)

3月の青少年センターだよりに、兵庫県下の非行状況は掲載されているが、川西市の状況は示されていないのはなぜか。青少年の健全育成の観点や非行防止教室を実施する上で川西市内の状況を紙面に掲載して現状をを理解してもらうべきではないか。

(事務局)

実際に川西警察署とは連携を図り口頭ではあるが非行状況についても報告は受けている。

(委員)

川西管内における少年非行の概況は検挙される青少年が増え、補導数は前年並みである。犯罪少年が22.7%増、補導件数は2%減少である。非行予備軍から犯罪少年になる傾向にある。逮捕事案は前年比1.5倍と多い。全体として低年齢化、悪質化であったが今年に入って現在、非行情勢は安定している。引き続き非行防止活動に努力したいと考えている。春休みに向けてしっかりと補導活動を実施し、非行の芽を摘んでいきたい。

(委員)

学校安全協力員について小学校では、年度末に名簿をきちっと整理していくと、実態は減少している。高齢化などさまざまな理由で活動が出来ない状態のまま登録しているケースもある。

地域の自治会等に新しく募集をかけるが大きく変動がないのが実情である。

(委員)

川西市だけではなく阪神間では万引きの低年齢化が懸念される。特に1・2年生児童による万引きの件数が多くあった。犯罪の重さもわからない状態で実行に至ることが多い。

「インターネット・ケータイに関するアンケート」は小学校では2年目であり、中学2年生では2人に1人、小学5年生で昨年は4人に1人であったが、今年は3人に1人が所持と言う実態があり、ケータイではなくスマホの広がりがあると聞く。アンケートの結果を利用して子どもたちはもちろん保護者向けにも研修していきたい。

(委員)

中学校においては「不審者対応訓練」「非行防止教室」を夏休み前に実施することができた。

子どもたちの動向が他校間、他市間、他府県間と広域にわたっている状況の中で広域な情報共有を関係機関も含めて常に行うことが重要になってきていると感じた。

(会長)

学校だけではなく家庭、地域と全市的な取り組みが必要である。

(委員)

補導委員として各地域では、大型店舗やコンビニ等の店主と巡回の際に情報交流を行うこ

# 審 議 経 過

No. 3

とで良好な関係が築けて、何かあれば動くことができる態勢を今後も強化していきたい。

(委員)

中学校と民生委員との連携強化の為、2年前より民生委員の定例会を学校で行い、合わせて情報交換を実施することで児童・生徒への地域での関わりや不登校生への見守りを行っている。

(委員)

ケータイ・スマホの問題は基本的には家庭、保護者の問題であると捉える中で今年度はPTA連合会として情報教育をテーマに研修を実施した。特にスマホについては子どもたちの方が多くの情報を知り得ている。学校においてもそのような研修を実施していると思うが、管理職や担当教師のみならず全教師、PTAにも参加していただき、啓発を願う。ケータイは子どもにとって楽しい関わりのものであるが、ストレスになっていることも事実である。子ども取り巻く大人が共通認識をもって欲しい。

(委員)

学校安全協力員について、各学校で安全についての研修がなされていないように思う。一つの組織になっていない気がする。学校安全協力員を統括されるコーディネーターが必要ではないか。

(委員)

ケータイにより家庭においても子どもたちの実態が見えにくい状況にある為、親と学校がともに考えていく課題である。

(委員)

子どもたちを取り巻く環境が随分変わり、親はケータイを子どもに持たせる前に研修等で情報を得て、子どもたちにも危険性を教えて欲しい。

今年度の社会教育委員の会のテーマが「地域と学校と家庭を繋ぐ社会教育」であり、情報共有の大切さ、デジタルだけでなく子どもたちに直接に声をかけながらのアナログ的な繋がりが今こそ必要であると思う。

## 3、協議事項

<事務局説明>

(2)平成25年度 川西市青少年センター事業の方針

概況

青少年の健全育成及び安全確保業務

非行防止対策業務

不登校に悩む児童生徒の対応業務

青少年情報発信(広報啓発)業務

重点事業

地域安全パトロールの充実

園児・児童及び生徒の安全確保・非行防止教室(研修会)の充実

「学校安全協力員」「こどもをまもる110番のおうち」の拡充

川西市青少年補導委員会活動の充実

適応教室青少年の家「セオリア」の充実

# 審 議 経 過

No. 4

(委員)

各地域で安全協力員の実態に合わせて名簿の整理を行い拡充の方向性を考えていただきたい。

(委員)

適応教室「セオリア」について平成25年度から担当課が移管されるが充実を図っていただきたいと強く願います。

(事務局)

学校安全協力員の名簿整理については学校と連携し早急に充実していきたい。小学校、中学校におけるスマホの問題についても学校及びPTA等との連携で研修等の対応について実施の方向で検討していきたい。

適応教室「セオリア」についても教育情報センターの教育相談部門と連携を図り充実させたい。

閉会